

夫が亡くなり
女手一つで子供を育ててきたけれど
いよいよ生活が苦しくなりました。
麓の村で一番生活に余裕のある弥吉さんに
助けを求めました。

…あの、本当に助けて頂けるんですか？

もちろんだ！
オラ、貯えだけはいっぱいあるんだ
ぞ、その代わりに…な？

家族が食べていけるだけの援助…
その代わりに要求されたのは
私の身体でした。

……分かりました
お受けいたします

！ほ、ホントだか？
いやあ、うれしいなあ♡
任せてけろ、しっかり面倒見てやるからな♡

（あなた、ごめんなさい…
でも私の心はアナタだけの
ものだから許して…）

こうして、私は弥吉さんのモノになりました。

弥吉さんは女性と床に入るのは
久しぶりだったらしく、
まるで赤子のように私の乳房に
吸い付いてきました。

キエちゃんのおっぱい……♡
デカくてふわふわでたまんねえなあ……♡

……んっ……♡

はぁ

とっつてもいやらしい舌づかいで
私の乳首を舐め回しながら
右手で私の乳房を鷺掴んで
感触をじっくりと楽しんでます。

荒い鼻息が乳房に当たり
弥吉さんが相当興奮しているのが分かります。

はぁ

もっ……

もっ……

ちゅっ

ちゅっ

キエちゃんはどこもかしこも
イヤらしいべ♡

ぞ、そんなこと……あ♡

弥吉さんが昔から私の事を
いやらしい目で見ているのは気付いていました。
会うたびに私の胸やお尻に
向けられていたじっとりとした視線…
厭でも自分がオンナとして
見られていることが分かってしまいます。

弥吉さんの口臭は少しきつかったけれど、
じっくりとお互いの唾液を交換していると
頭がぼうつとしてきました…

んむちゅ…♡今日は絶対帰さねえからな…♡
いっっぱいおまんこしよな♡

…♡はい…♡

おまんこ♡

♡

♡

♡

夫と最後に接吻をしたのは
いつだっただろう…

♡

おまんこ♡

♡

♡

♡

オラ、
もうこんなになっちゃったべ♡

ッ!
(嘘…、なんて大ききなの…)

ズッ♡

弥吉さんのモノは途轍もない大ききさでした。
長きも太きも夫のモノとは比べものにならない、
女を啼かせる為だけにあるような立派なおチンポ…

弥吉さんが私の目の前で
おチンポをぶらぶらと揺らし、
まるで自分の雄としての力を
私に誇示するように見せつけてきます。

これからコイツで
キエちゃんをたっぷり悦ばせてやるからな♡
覚悟してくれ…♡

キキ…

キキ…

♡

ゼッ♡

ビク

♡

♡

♡

♡

口で弥吉さんのモノを丁寧に奉仕します。
むせかえりそうな男性の香りがする
顎が外れそうな程の巨根を口いっぱい
頬張り、私の唾液でしっかりと濡らします。

ハッハッ

私の口淫を満足げに眺める弥吉さん。
これからこの凶悪なおチンポで
貫かれてしまうのかと思うと
私は少し不安が込み上げてきました。

んっ…心もひいいれふか…?
(気持ちいいですか?)

おっ…おほっ…心さ、最高だあ♡
(うへへ…あのキエちゃんか
下品なしゃぶり顔晒して
オラのチンポをしゃぶってるべ♡)

んっ♡んむっ♡

んっ♡んむっ♡
(ああ…こんな大きなモノが
私の中に入ってくるのね…)

ハッハッ♡

んっ♡

恋人のように手をしっかりと繋ぎ、
いよいよ抱かれる時が来ました。
弥吉さんのおチンポは既にパンパンに膨張し、
私のおマンコに早く入りたいと急いでいます。

あ、あのっ…
出すときは外でお願いします…

今更感じる罪悪感…
あの子たちを食べさせる為とは言え、
こんな不貞行為…許される筈がありません。

分かってる分かってる…
そ、それじゃあいくぞ…♡

…♡…はい、
いらしてください…♡



はま♡

はま♡

はま…♡

はま…♡

キ…♡

はま♡

はま♡

はま♡

はま♡

はま♡



ア
ツ
…
♡

うおツ…♡
おおおお…♡
♡

ツツ

ツツ♡

ツツ
ツツ
ツツ

ツツ…

ツツ

ツツ

おツ…♡おふう…♡
キエちゃんのナカ、キツキツだあ…♡

おツ

あ♡

おツ♡

キエちゃんがまさか
こんなスケベな肉穴持ってたとはなあ♡

…ツすけべ、なんて
そんな…あ♡

あ♡♡はあツ…♡
おつき…い♡

は…

おツ♡

はあ

それじゃ、いくぞお♡

おツ♡

おツ♡

弥吉さんと一つに繋がった瞬間
全身に快感が駆け巡りました。
おチンポのあまりの大きさに
膣の形が変わっているのが
はつきりと分かります。

私が弥吉さんの上に跨り
懸命に腰を振っていると、
弥吉さんに限界が訪れました。

あぁっ♡

あぁっ♡

あ、ああ…♡
イクぞ…グッ、ウウ…♡

ドボッ♡

ニギギ♡

ニギギ♡

そして…

おぼろ♡

はあっ♡
そ、外にお願いしますッ♡

おん♡

あ♡

うおっ…そろそろイキそうだ…ッ

あ♡

あ♡

あ♡



あーんッ
んッ!!!

とろろ

あーんッ

ぐおおッ………!おうッ♡

ああんッ♡

ブルンッ



ンッ

おマンコから引き抜いたと同時に放たれた
弥吉さんの子種汁が
私のお尻に大量にかかっているのを
感じます。
部屋中に広がるオスの匂い…
あまりの匂いの濃さに頭がくらくらします。

はあ…ツ♡はあ…ツ♡
んっ…お疲れさまでした…♡

お
お
ハア…ハア…
いや、まだだべ…♡
まさか一回で終わりだなんて
思ってたねえよな？

……はい…♡
何度でもお付き合います…♡



キエちゃんツ
オラのややこ産んでけるツ！

あっ♡あんツ♡
か、堪忍して…くださいツ…♡

いいでねえか！オラたちもう
こんなにずっぱしハメまくった仲だべ？

でッ、でも…私は
あの人の妻なんですツ♡

…ツ！くそッ今はオラのオンナだべ！？

あゝ

はま♡

あん…あん

おま

お♡

あッ♡待つて♡
そんなに激しく…ツ♡あんツ♡
ああっ♡

ズッ♡

ズッ♡

ハッ♡

ズッ♡

ハッ♡

ズッ♡

ハッ♡

おま

おま

おま

ん♡

ホレツ
オラの子供作りたいうって言えッ
言うまで帰さねえどっ!

おッ♡おおッ♡
イ◇……♡♡♡
…ッ、ハアッ♡ハアッ♡
もう、許して…ッ♡おッ♡

弥吉さんの太くて遅いおチンポは
私の弱いトコロを的確に突いてきます。
否が応にもオンナを喘がせる凶悪なチンポ
に私程度の女では成すすべもありません。

(…ッ、ダメッ♡
これ以上されたら…
私、本当にこの人のモノに…ッ♡♡)

アッッッ

アッッ♡

♡おッ♡

♡おッ♡

♡おッ♡

♡おッ♡

♡おッ♡

アッッ

アッッ

アッッ

♡おッ♡

アッッ?

アッッ

あゝ

アッッ



不意に弥吉さんの腰がピタリと止まりました。

：じゃあ援助の話は無かったことに
するしかねえかもな

そ、そんな…ッ！
話が違います…！

オラだって無関係の家族のために
これから身銭を切っていくんだ、
それくらいの善処はしてくれても
いいと思うんだけどな？

…アツアツ…



なあキエちゃん、子供たちのコト考えたら
どうするべきか…分かるよな？

……

初めから分の悪い取引…
こうなることは
弥吉さんに身体を許した時点で
決まっていたのかもしれない。
…私に残された道は
一つしかありませんでした

ヒキ…

(泣)

ヒキ

は

は

…っください…

(泣)

ヒキ…

ヒキ

んー？良く聞こえねえな

申出しして下さいっ…♡



！くくく♡遂に言ったなッ♡
ホラ、ドロを出してほしーいんだッ

意地悪な人：
あくまで私の口から
「弥吉さんの子を孕みたい」と言わせたいのです。

あつ♡キエの、おまんこに
弥吉さんの子種汁お出しになって下さい♡♡

あま



はま



子供はッ？

はま



おッ♡♡おッ♡♡
…ッ…弥吉さんの子供
産ませてください♡♡



ハム



あま



ハム

ハム

ハム

あま♡

あま♡

ハム

ハム

キエちゃんは軽いから
簡単に持ち上げられるべ♡

いやっ…恥ずかしい…♡

あっ

は…

は…

今更カマトトぶつても遅いべ♡
よく見る、オラとキエちゃんが
しっかり繋がってるトコロをよ♡

弥吉さんの射精から絶対に逃げられないよう
抱え上げられました。
股を思い切り開かされ、弥吉さんのおチンポが
おマンコにしっかりと突き刺さっているの
を見せつけられます。

グズッ

は…

ああ…凄い…ッ
あんなに大きなのが私のナカに…ッ♡

へっ♡オラがオンナの極みに
連れてってやつからな♡
もう戻れねえぞ…♡

は…

は…

は…

は…

は…



母さんが弥吉さんの所へ行つてくると
言つたきり、数刻も帰つてこない。
心配になつたので迎えに来てみたんだけど…

…？母さんの声？
弥吉さんと何してゐるんだ？

恐る恐る戸をそつと引いて
中を覗いてみると…



こりやあええ肉壺だあ♡♡♡
ほれッ♡ほれッ♡

んおおっ♡これ、深い…ッ♡

こうやって奥をガンガン突いちまえば
キエちゃんも孕みたがりの
ただのメス猿になっちゃうんだベッ♡

ああッ♡ダメっ♡ダメっ♡
これ奥までキテるっ♡

おっ

おっ

あ

おっ

おっ

おっ

おっ

おっ

おっ

おっ

おっ



ハアツハアツ
ぐおお…ツツ！そろそろイクぞ…ツツ！！

嘘だ…母さんそれはダメだ…！！

あひツ♡あんツ♡あツ♡…ぐ…ツ…♡
や、やっぱりナカはやめ…ツツ！！

ズッ
ズッ
ズッ
ズッ
ズッ

ズッ♡

ズッ♡

ズッ



夥しい量の弥吉さんの子種がぶちまけられ、入りきらなかったモノが溢れでてきます。

うお…あ…ツ
中出し、決めたぞお…♡
オラの子種がキエちゃんの中身に…ツ♡

…ツ♡あ…おツ♡
おお…ツ♡

年甲斐もなく派手に気を遣ってしまった私は
下品な声を隠すこともできません。
オンナとしての極みに至った感覚が
はつきりとありました。

あ…♡は、い…♡
キエちゃん、イツたんだな…♡
オラのチンポ、気ン持ちええだろ？

こーんただ身体の相性いいんだ
オラとキエちゃん
ええ夫婦になるだな♡

ドクッ
ドクッ
ドクッ

ドクッ
ドクッ
ドクッ

は。

は。

は。

は。

は。

おめえさんは誰のモンだッ?

んッ♡んぶっ♡弥吉さんのモノれふっ♡

嫁なら旦那のチンポしっかり奉仕しねえとな?

っ♡ふぁい♡
お口でしっかり奉仕しますっ♡

(くぅ〜ッ
あのキエちゃんが遂にオラのモンに…♡
村の男ならみんな狙ってたオンナが…!)

アホッ♡

んっ♡

んっ♡

んっ♡

んっ♡



ああッ…そろそろ出すぞ…
全部飲みよ…ッ

どうぞっ♡キエのお口に
出してくださーいっ♡



アホ♡

♡アホ♡

♡アホ♡

アホ♡

フッ…ウウ…!

アホ♡

アホ♡

アホ♡

ッ

ッ

ッ…

♡

アホ♡

フッ

ッ…

ッ

ッ

ッ

うおツ…お♡

ん♡♡…んツ

ゴロ

ビュルル

ゴロ

ゴロ

ゴロ



う…ッふうッ…♡
…へへっ♡いい顔してんなあ、キエちゃん♡
下品なメスの顔って感じだ…♡

んっ…♡ゴク…♡ゴク…♡

弥吉さんの子種が喉を通って
胃に落ちていくのを感じます。
ねっとりと絡みつくような濃いモノが
まるで私を身体の内側から犯すように…

たまんねえ…♡キエちゃんは
最高の雌だ♡間違いないねえ♡

はあ

ふ…

ゴクッ
ゴクッ

はあ…

はあ

一度中出しをして私の味を占めた弥吉さんは
すっかり亭主関白です。

もう何度胎内で射精されたか分かりません。
私が気を遣うとそれを罰するように子種を
撒き散らかされ、
まるで弥吉さんの掌の上にいるようです。

オラツ！ここがいいんだベツ！？
キエはここが弱いんだろツ

あっ♡んん♡ッ♡あっ♡
は、はいい♡

ま、またイク…♡ッ♡いい♡グ…♡ッ♡
おお♡♡♡おお♡♡♡おお♡♡♡

またイクんだな♡
さっさと気持よくなっ♡とけ♡

まるで野犬の交尾のように
後ろからガンガン突かれ続け
新しい子種が送り込まれる度に
膣内からは入りきらなかった子種汁が
どぼどぼと零れます。

あ

お

お

お



ズッ

ん

あ

は

い

ふ

か

あ

あ

ん

ズ

ん

ズ

あ

あ

ズ

全くッ
こんなスケベな肉身体中に付けて
外ほつつき歩きやがってッ
見るたびにマラが疼いて
仕方なかったんだ！
ホントはオラを誘惑してたんだろッ

おっ♡そ、そんな…ちがッ♡

溢れ出るほどの子種を受け止めながら
弥吉さんからありもしない下品な疑惑の
言葉を浴びせられる母さん。
そんな筈ない…！
母さんはそんな人の筈が…！

まだカマトトぶるようなこと言うかッ
してたんだろッ

やっぱりなッ♡オラは知ってたんだッ
キエちゃんは孕みたがりの
ドスケベ淫乱オンナだって♡
もっと早くねんごろしとけば良かっただっ♡

あ
は、はひいッ♡
してましたあッ♡
キエはスケベな女ですッ♡♡♡

…嘘だ…母さん、嘘だと言ってよ…

キエ♡

おふッ

おふッ

おおツ…♡そろそろ最後だッ
デカいのかますぞ…ツ

弥吉さんが最後の射精の準備に入ります。
今までより一層腰使いが荒くなり
私の奥の奥まで掘り進んでいきます。

おおそうかッ♡
んじゃあ夫婦で派手にイッちまうか♡
ほら、上手におねだりしてみれッ♡

あん
おッ♡い、…ぎ…ツ♡
私も…もう、イキま、ス…ツ♡

アッ♡はいッ♡あなたッ♡
イカせてください♡♡
この淫らな女に
最後のとどめを差して下さい♡♡

よおし、いくぞ…ツ



オラの子種たあんと
味わえよおツツ♡♡

クンクン
おっぱい
おっぱい
!!!

♡♡♡

クンクン

クンクン
クンクン

クンクン
クンクン

♡♡♡

♡♡♡

♡♡♡

クンクン
クンクン



無限にも感じられる弥吉さんの射精…
太く長い肉棒から母さんの子宮に
子種を一気に注ぎ込んでいる。

今、目の前で絶頂の最中の女性は
自分たちのために身体を張っている
「母親」などではなく
一本のチンポに屈した卑猥で淫らな
「メス」なんだと感じた時、
自分の下腹部が痛いほど硬くなっていたことに
初めて気付いた…



ツふうー♡出た出た♡
流石に今日は打ち止めだ♡
キエ、愛してるぞ…♡

…は…はい…♡
私も…♡す…♡ツ♡アナタ…♡♡

カクカクカク



母さんは壊れた絡繰りのように同じ言葉を繰り返している。父さんや家族への後ろめたさ母親としての責任…その全てをオンナとしての悦びが塗り替えていった…

わ、私…達を
たすけて…♡私、たち…♡

は…!!

は…!!

は…!!

は…!!

は…!!

任せとけ、キエも子供たちも
みーんな、幸せにしてやるだよ…♡

は…!!

は、…い…♡
お願いします…アナタ…♡

(淫乱、メス猿…何と呼ばれてもいい…
私はあの子たちが守られればそれで…♡)

どほっ♡♡

は…!!



はー!!

はー!!

はー!!

はー!!

はー!!

はー!!

はー!!

はー!!

終